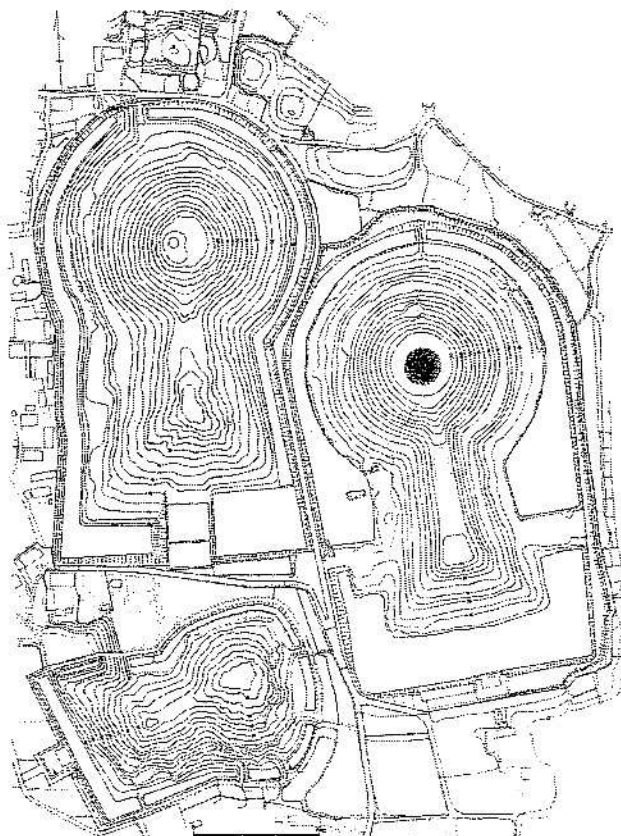


佐紀石塚山古墳（成務陵古墳）

全長 204m・後円部直径 132m・前方部幅 111mの前方後円墳。主軸は南北方向で、前方部を南へ向ける。墳丘は3段築成であるが、地形の低い西側にはさらに下側に1段分が付加されている可能性がある。前方部西側のくびれ部寄りに造り出しを有する。墳丘には葺石と埴輪列が認められ、その周囲には鍵形周濠と外堤・外周溝がめぐる。東側の周濠は、佐紀陵山古墳外堤に規制されて大きく屈曲する。南北に1箇所ずつ渡り土手があり、北側の渡り土手の南西隅で墳丘に取り付く円筒埴輪列が見つかっている。円筒埴輪列は2重構造となっており、外側に小型円筒埴輪、内側に楕円筒埴輪が並ぶ。南側の渡り土手は拝所に造成されて詳細不明であるが、おそらく南北の渡り土手は当初から存在していたと考えられる。

外周溝は、幅1m足らずで深さ0.3m前後の規模であり、後円部北東側でのみ確認されている。外周溝の外側北東方向に方形墳の陪塚3基が配置されている。

出土埴輪の特徴などから、築造時期は4世紀後葉から末葉と推定できる。



石塚山古墳（左上）・陵山古墳（右）・高塚古墳（左下）

佐紀陵山古墳（日葉酢媛陵古墳）

全長 203m・後円部直径 127m・前方部幅 87mの前方後円墳。主軸は南北方向で、前方部を南へ向ける。墳丘は3段築成で、葺石と円筒埴輪列が認められる。墳丘の周囲には盾形周濠と外堤がめぐり、前方部の東西に渡り土手を取り付く。なお、後円部の北側にある小規模な渡り土手は後世に盛土してつくられたものである。西側の渡り土手の西端に設けられた見張所の改築工事の際に南北方向の円筒埴輪列が見つかっており、外堤にも埴輪列がめぐっていたことが判明している。

西隣に位置する佐紀石塚山古墳の周濠・外堤が佐紀陵山古墳によって変形を余儀なくされており、佐紀陵山古墳が佐紀石塚山古墳より先に築造されたのは明らかである。出土埴輪は典型的なⅡ期の様相を示し、築造時期は4世紀中葉から後葉と推定できる。

瓢箪山古墳

全長 96m・後円部直径 60m・前方部幅 45mの前方後円墳。主軸は南北方向で、前方部を南へ向ける。墳丘には葺石が認められるが、段築の有無は不明。埴輪の出土量も少ない。

墳丘の周囲には盾形周濠がめぐるものの、前方部南西側に衛門戸丸山古墳がせまり、前方部前面に渡り土手があって、周濠は南西側で途切れる。その理由は、先に存在した衛門戸丸山古墳を壊さずに築造したためと考えられている。

わずかに出土している埴輪からみて、5世紀初頭頃の築造と推定できる。